

# 地域づくり加速化事業伴走支援について

大分県佐伯市  
福祉保健部高齢者福祉課地域包括ケア推進係

2026/03/04

佐伯市高齢者福祉課

1

# もくじ

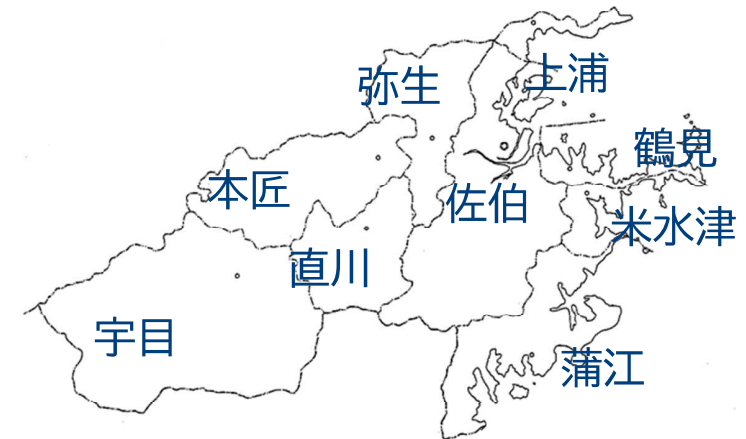
- 1 市の現状と政策の方向性
- 2 介護保険事業における課題・応募のきっかけ
- 3 事業の経過
- 4 今後の展開・まとめ



# 1 市の現状と政策の方向性

# 1 市の現状と政策の方向性

- ・大分県南東部に位置する、九州一広い（903.14km<sup>2</sup>）自治体
- ・平成17年3月に1市5町3村が合併
- ・合併から約20年で人口が16,604人（約20.6%）減少  
特に、年少人口と労働生産人口の減少が顕著
- ・日常生活圏域は3圏域  
（第1圏域…旧市内・上浦、第2圏域…山間部、第3圏域…海岸部）
- ・旧市町村間での高齢化率の差が顕著  
佐伯地域（37.5%）と弥生地域（39.3%）以外の地域では高齢化率が50%を超えており、本匠地域においては60%目前となっている。



# 1 佐伯市の概要・市政における方向性

## 市政の基本的方向性

### ① 誰もが「挑戦できる」まちづくり

- ・急速な人口減少・少子高齢化への対応は大きな課題である。  
当面は、総人口と生産年齢人口の両方が減少するということを正面から受け止め、  
**人口規模が縮小しても、地域経済が維持される、安全・安心な社会の構築を目指す。**
- ・そのために、あらゆる分野において「誰もが挑戦できるまちづくり」を進めていく。

### ② 誰もが「お互いを尊重する」まちづくり

- ・市民一人ひとりの思いや考えをお互いに尊重し合うまちづくりが重要

### ③ 誰もが「つながる」まちづくり

- ・行政（佐伯市）が単独で、すべての地域課題を解決することは困難であるため、  
これまで以上に市民、企業、団体などと連携する必要がある。
- ・すべての当事者の連携を進め、**頑張っても一人（単独）でできないことは  
遠慮なくお願いすることができる「誰もがつながる」まちづくりを進めていく。**

# 1 佐伯市の概要・市政における方向性

## 佐伯市の人口推計（年少人口／生産年齢人口／高齢者人口）

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
0～14歳	6,984 10.4%	5,753 9.5%	4,562 8.3%	3,768 7.6%	3,398 7.6%	3,120 7.8%	2,834 7.9%
15～64歳	32,356 48.4%	27,920 46.0%	25,182 45.7%	22,583 45.3%	19,312 43.0%	16,394 40.8%	14,074 39.3%
65歳以上	27,511 41.2%	26,965 44.5%	25,395 46.1%	23,479 47.1%	22,159 49.4%	20,659 51.4%	18,871 52.7%
総人口	66,851	60,638	55,139	49,830	44,869	40,173	35,779

引用元：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

# 1 佐伯市の概要・市政における方向性

## 佐伯市の人口推計（年少人口／生産年齢人口／**高齢者の世代別内訳**）

65歳以上について  
詳しく分けてみると…

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
0～14歳	6,984 10.4%	5,753 9.5%	4,562 8.3%	3,768 7.6%	3,398 7.6%	3,120 7.8%	2,834 7.9%
15～64歳	32,356 48.4%	27,920 46.0%	25,182 45.7%	22,583 45.3%	19,312 43.0%	16,394 40.8%	14,074 39.3%
65～74歳	12,484 18.7%	10,580 17.4%	8,628 15.6%	7,454 15.0%	7,500 16.7%	7,538 18.8%	6,490 18.1%
75～84歳	9,296 13.9%	10,281 17.0%	10,537 19.1%	8,967 18.0%	7,377 16.4%	6,427 16.0%	6,528 18.2%
85歳以上	5,731 8.6%	6,104 10.1%	6,230 11.3%	7,058 14.2%	7,282 16.2%	6,694 16.7%	5,853 16.4%
総数	66,851	60,638	55,139	49,830	44,869	40,173	35,779

引用元：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」



## 2 介護保険事業における課題・応募のきっかけ

## 2 介護保険事業における課題・応募のきっかけ

地域支援事業におけるサービス・活動C（短期集中予防サービス）

「ころばん事業・ころばん訪問事業」を平成29年から実施



近年、利用者数が伸び悩み

年間利用実人数…令和元年度：153人⇒令和6年度：100人まで減少

普及啓発の強化に取り組んでいるものの、利用者数の減少が続いており、現在の状態が続くと今後事業の継続にも影響を及ぼす可能性が大きい。

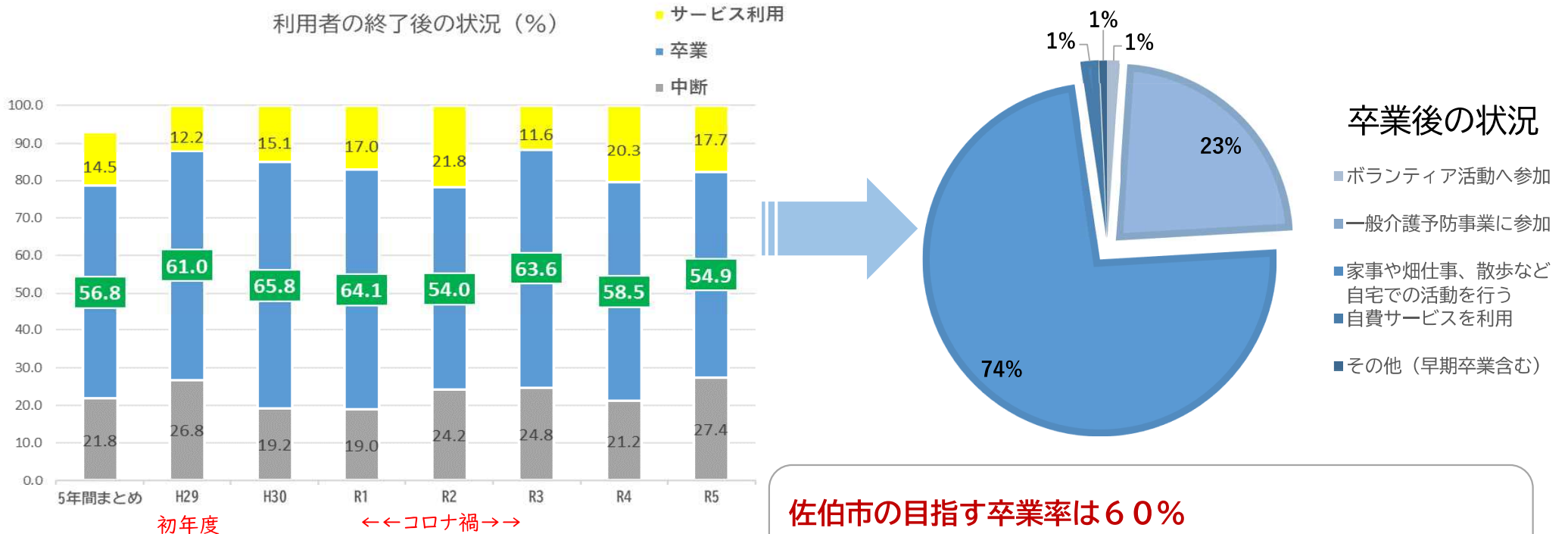


地域づくり加速化事業の伴走支援制度を活用し、サービス・活動Cの利用者増加に向けて様々な主体が取り組むべきことを検討する

- ・要支援認定者や生活機能の低下が見られる方を対象
- ・3ヶ月から6ヶ月の短期間で、専門職が個別のプログラムを提供
- ・高齢者の身体機能と生活機能の向上から介護給付費の抑制を目指す

# 短期集中予防サービス「ころばん事業」・「ころばん訪問事業」

## ○ 利用者の終了後の状況



### 佐伯市の目指す卒業率は60%

【R6年12月現在】

ころばん事業への相談者107人の内、82人が利用（宇目、直川地区の利用者の獲得）に至ったが、既往疾患等を含めた事由から他のサービスへ。

→本人の同意以外に家族の意向も含めて自立支援型サービスに繋がりにくい現状。短期集中予防サービスの対象者像について再度共有が必要。

# 短期集中予防サービスにおける現在の課題と今後の展開

**目指すべき姿 自立支援※の好循環**  
 ※セルフケアの定着・社会参加活動の再開や継続・役割などの継続や拡大等

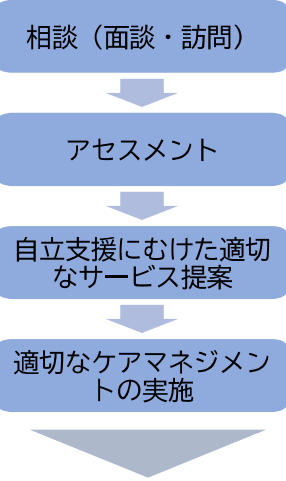
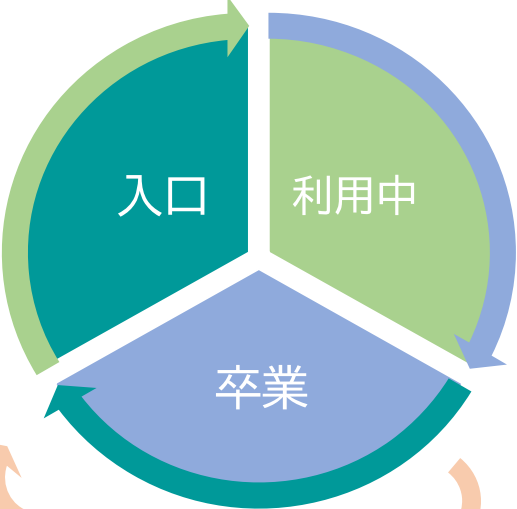
早期からのつながり

適切な支援の選択を支援

医療・介護専門職のつながり

- 歯科衛生士
- リハビリの専門職
- 栄養士

## 短期集中予防サービス



早期発見・支援

地域支援事業  
 ところとからだがよこご  
 『通いの場』  
 ・サロン  
 ・さいきの茶の間  
 ・老人クラブ連合会 など

保健事業の一体的実施  
 特定健診・特定保健指導  
 後期高齢者医療制度

**心身機能の維持向上**  
 運動機能向上  
 食生活の向上  
 口腔機能向上  
 認知機能低下予防

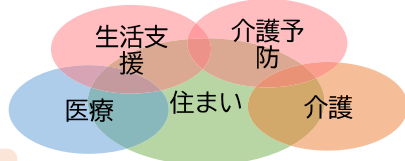
**生きがい・楽しみ**  
 就労活動  
 趣味活動 (運動や文化)  
 ボランティア

**交流 (孤独・孤立防止)**  
 多世代交流  
 共生社会

地域との関わり  
 いくつになっても主体的に社会参加

地域の力を組み合わせる

地域包括ケアシステムの深化・推進



地域の人と資源がつながり、地域の力を組み合わせ地域共生社会の実現と活性化



## 3 事業の経過

### 3 事業の経過

日程		内容
令和7年7月2日(水)	オリエンテーション	
7月14日(月)	0.5次mtg	支援チームと市の現状共有
8月4日(月)	第1回目現地支援	短期集中予防サービスの課題の目線合わせ、 共通認識の醸成 ⇒参加者へのアンケート
10月3日(金)	1.5次mtg	1回目の振り返り、2回目の方向性検討
11月11日(火)	第2回目現地支援	アンケート結果を受けて、カテゴリーごとに 今していること・今後できそうなことを抽出
令和8年1月7日(水)	2.5次mtg	2回目の振り返り、3回目の方向性検討
2月9日(月)	第3回目現地支援	各機関の今後の具体的なアクション検討

※上記のほか、随時係内でのミーティングや庁内・庁外関係者との協議を実施

## 3 事業の経過 オリエンテーション

### 課題の整理

#### 短期集中予防サービスの利用者減少

- ・ これまでにも事業所拡大など多くの取組をしていきっている
- ・ 機を捉えて関係者間の規範的統合を図っている
- ・ 関係者への周知活動や、住民向けの普及啓発も行っている  
→なぜ利用者が減少傾向なのか、明確な理由が不明

### 自治体の特性を考慮する

- ・ 九州一の面積
- ・ 地域ごとの高齢化率の差が顕著

## 3 事業の経過 0.5次mtg

### 課題についての情報共有

- 佐伯市の現状
  - ・対象者の把握方法
  - ・通いの場の現状
  - ・普及啓発の方法

### 現地第1回目支援について

- ・関係者が課題を認識し、同じ方向を向くことが目標
- 市が考えている課題感とのずれが生じているので、目線合わせを行い、共通認識を図る

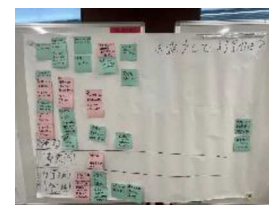
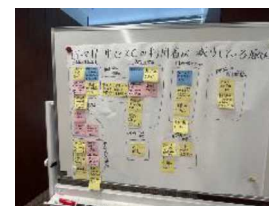
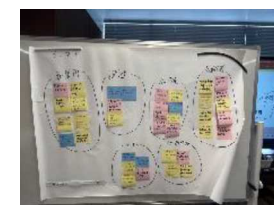
# 3 事業の経過 第1回目現地支援 -1

## 参加者

- ・ 地域包括支援センター 管理者、介護支援専門員、相談員ほか
- ・ 社会福祉協議会 第1層・第2層SC、サロンコーディネーターほか
- ・ サービス・活動C実施事業所 等

## 実施内容

- ・ 行政説明（九州厚生局、市）
- ・ アドバイザー講義
  - (1) 「総合事業は『地域づくり』！～通所C対象者は？～  
『通いの場』等の居場所がカギ」
  - (2) 「短期集中事業を活用した事業循環」
- ・ グループワーク：
  - (1) サービスCの利用者が減少している原因は何か
  - (2) サービスCの利用者を増やすためにできることは何か



## 3 事業の経過 第1回目現地支援 -2

### 現地支援後アンケートの結果

第1回 佐伯市支援後、参加者へのアンケート実施

Q グループワークの結果から、「サービス・活動Cの利用者を増やすためにできること」の具体的な内容を下記に記載しています。  
優先順位が高い順に、チェックをしてください。

	1位	2位	3位
住民向けの普及啓発	◎		
効果的な広報活動		○	○
事業所拡大（事業所数・送迎範囲含む）	○	◎	
通いの場等、幅広い団体から対象者を抽出する仕組み	◎	◎	
医療機関等の他機関（企業等含む）から対象者を抽出する仕組み			○
介護予防ケアマネジメント負担軽減			◎
対象者選定の明確化（対象者像の絞り込み）		○	◎

チェック数の多い順に1位 ◎、  
2位 ○とした。（同数あり）

この結果から、  
・類似している具体的内容を同時に多方面から考えながら  
・地域づくり加速化事業期間内に検討や計画を立案できそうなもの

に焦点を当てる

## 3 事業の経過 1.5次mtg

### 第1回目現地支援、第2回目現地支援の方向性整理

- ・ 第1回目現地支援後に実施したアンケートについて、結果・所感の共有
  - …結果は結果として受け止める。
  - 取り組みやすさの軸も考慮して今後の取組を検討する。
  - 短期・中期・長期の目標を共有しながら関係者間で合意形成しながら検討できるとよい。
- ・ 第2回目現地支援に参加していただく機関の拡大
  - …庁内（福祉保健部）、県保健所、医療機関に追加で参加依頼

## 3 事業の経過 第2回目現地支援 -1

### 参加者

- ・地域包括支援センター 管理者、介護支援専門員、相談員ほか
- ・社会福祉協議会 第1層・第2層SC、サロンコーディネーターほか
- ・サービス・活動C実施事業所、市内医療機関MSW
- ・佐伯市福祉保健企画課、健康増進課 保健師 等

### 実施内容

- ・行政説明（九州厚生局、市）
- ・グループワーク：
  - （1）住民向けの普及啓発について
  - （2）サービスC対象者の抽出基準、方法等について
  - （3）事業所の拡大：市民の事業参加機会の拡大について



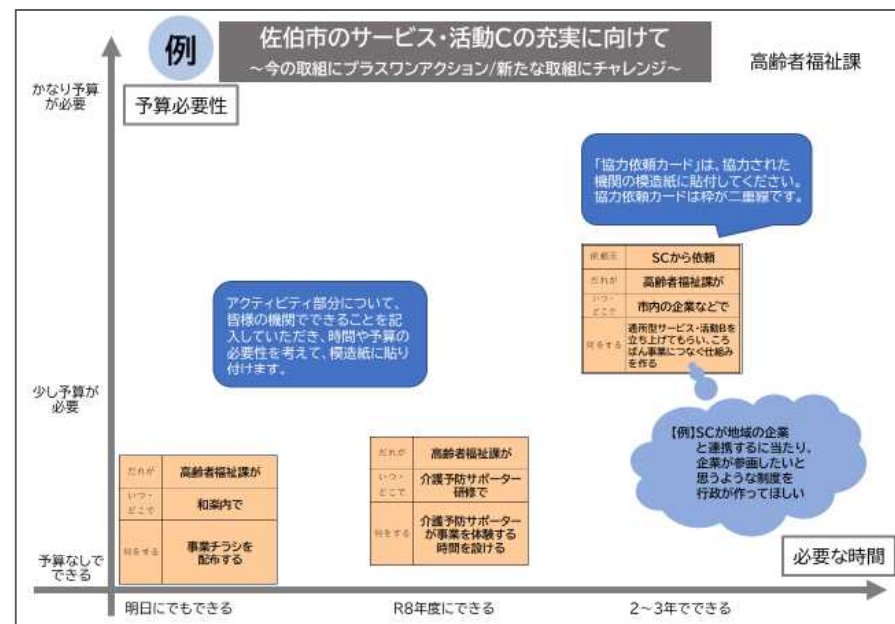


# 3 事業の経過 2.5次mtg

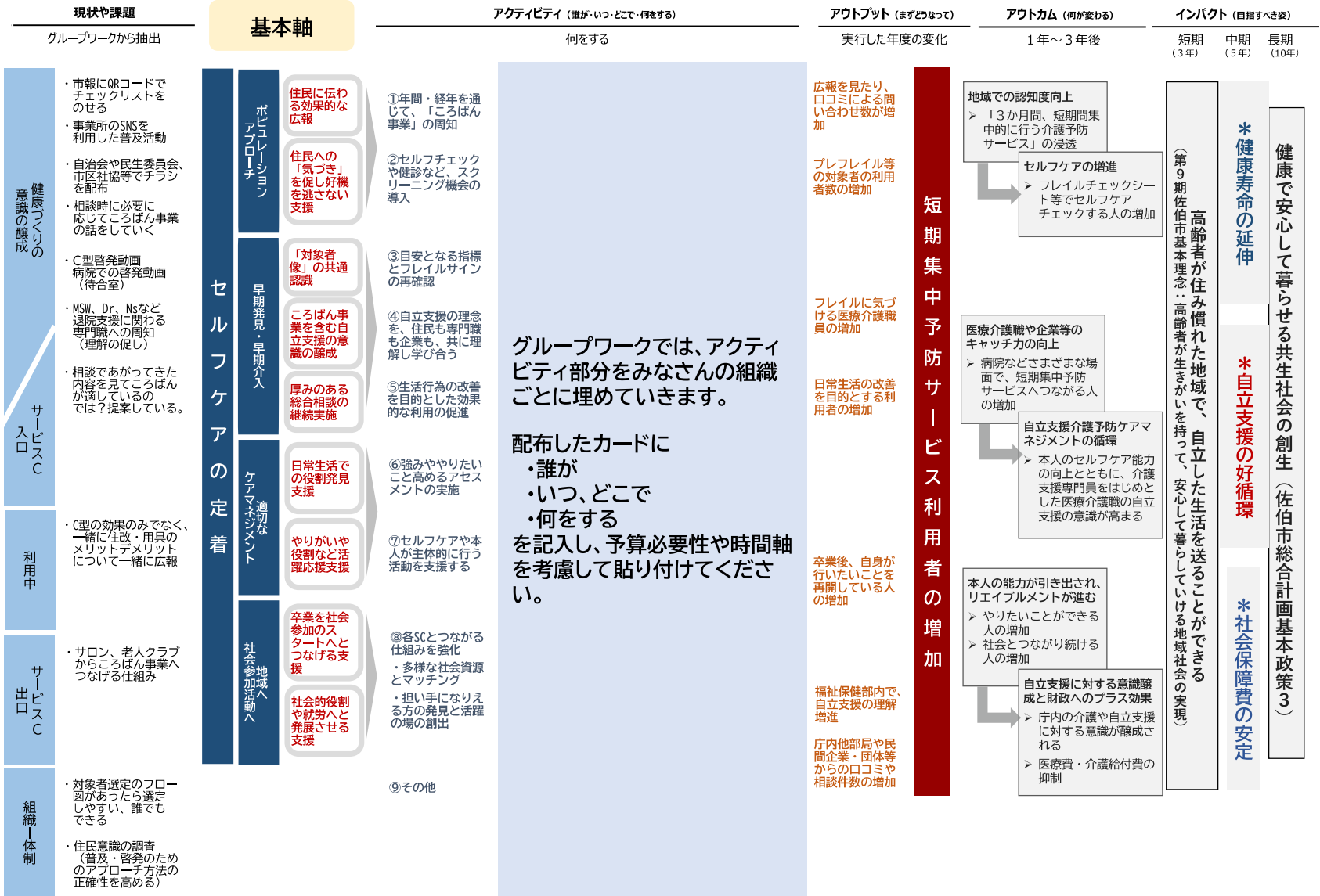
## 第3回現地支援の方向性整理

- ・どの機関からのもの、やるべきことについて意見は活発に出るが…  
⇒「行政がやること」・「誰かがしてくれること」の域を出ない。  
「誰か」ではなく、「自分たち」を主語とする意識への変化が必要。  
⇒それぞれの現在の業務でプラスワンアクションを起こしたり、新たなチャレンジを起こしてほしい

- ・事業ロードマップ・ロジックモデルを活用し、実現したいアウトカムに向けて、自分たちを主語としたアクティビティを書き出すグループワークとする。  
書き出したアクティビティは、実行に係る予算や時間の必要性を考慮してもらう。



# サービス・活動C(短期集中予防サービス)ころばん事業 ロード・ロジック合算 MAP



グループワークでは、アクティビティ部分をみなさんの組織ごとに埋めていきます。

配布したカードに

- ・誰が
- ・いつ、どこで
- ・何を

を記入し、予算必要性や時間軸を考慮して貼り付けてください。

## 3 事業の経過 第3回目現地支援-1

### 参加者

- ・地域包括支援センター 管理者、介護支援専門員、相談員ほか
- ・社会福祉協議会 第1層・第2層SC、サロンコーディネーターほか
- ・サービス・活動C実施事業所、市内医療機関MSW
- ・佐伯市福祉保健企画課、健康増進課 保健師 等

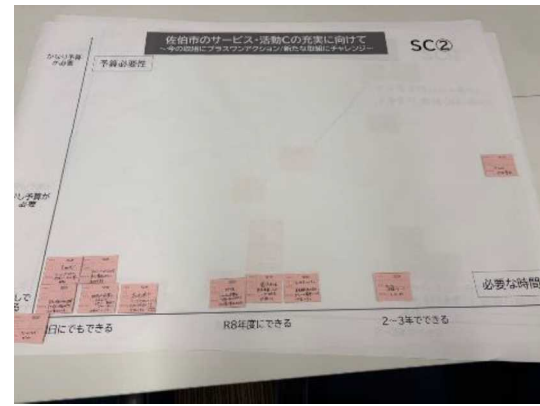
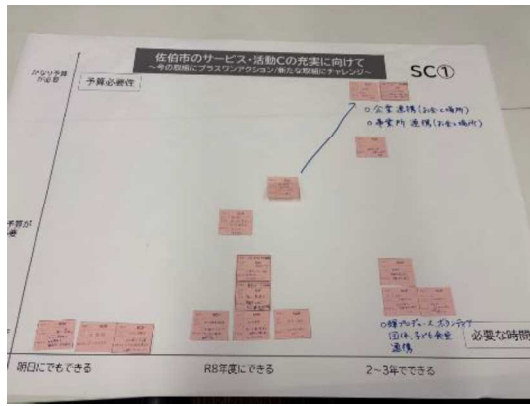
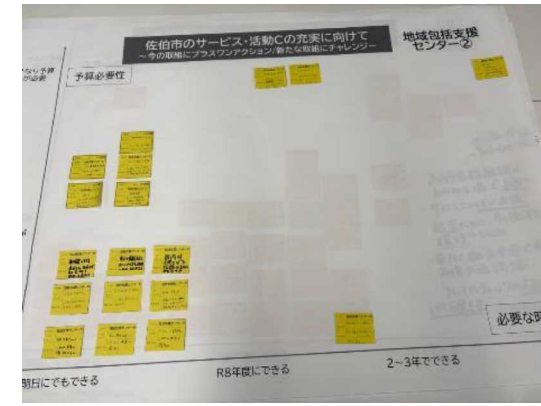
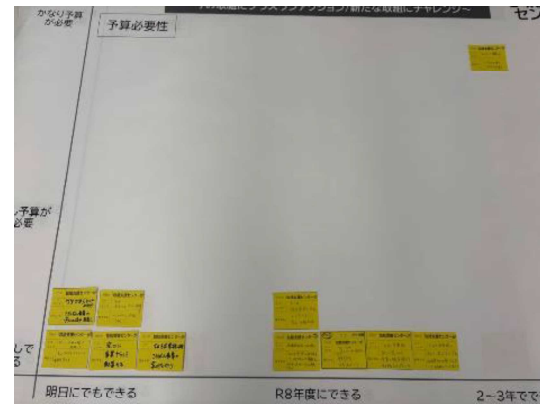
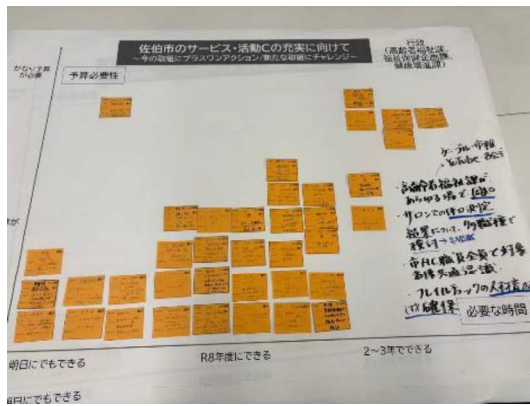
### 実施内容

- ・行政説明（市）
- ・グループワーク：
  - (1) アドバイザー講話「短期集中事業を活用した事業循環」
  - (2) グループワーク、全体共有



# 3 事業の経過 第3回目現地支援-2

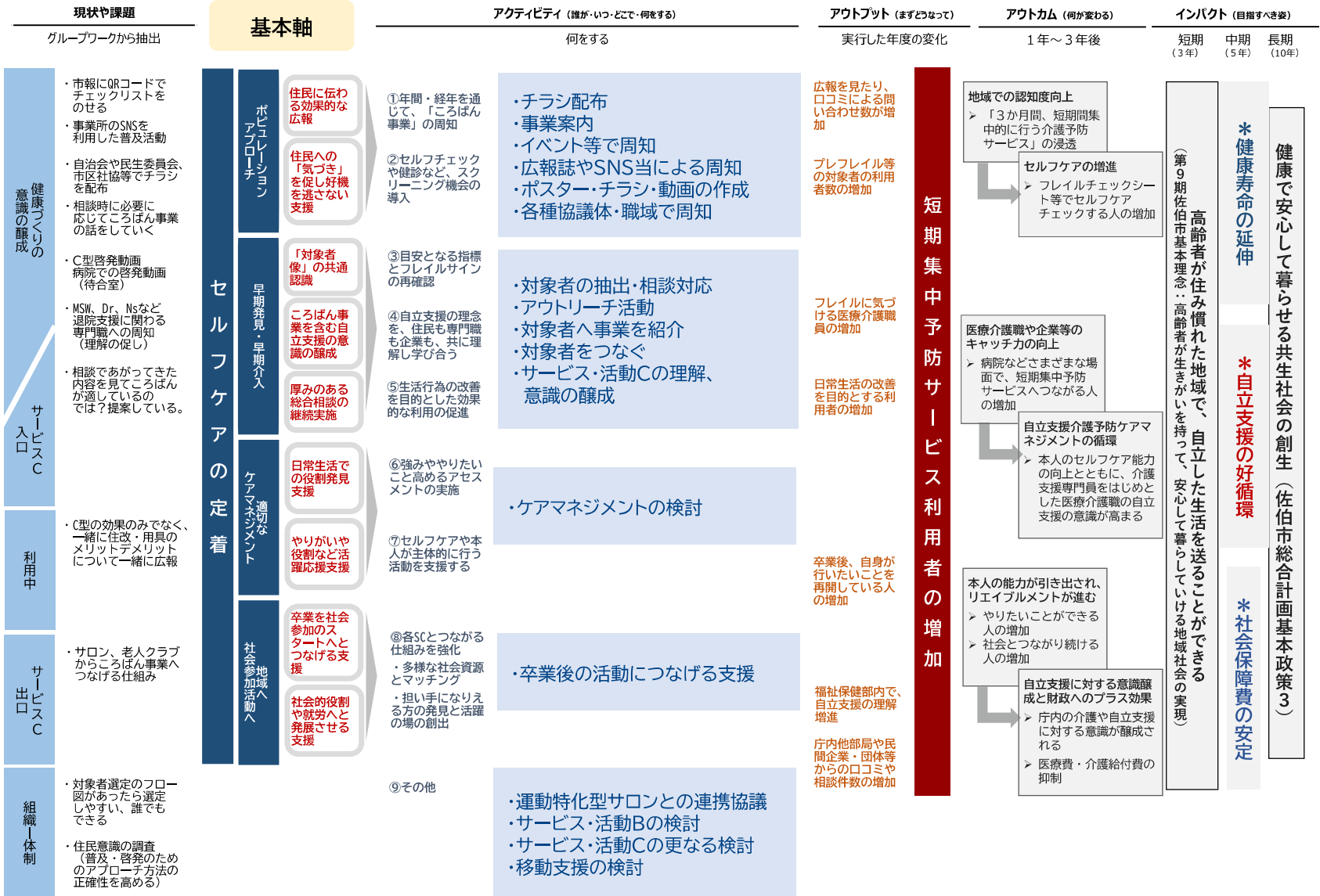
## グループワークの結果



2026/03/04

佐伯市高齢者福祉課

# サービス・活動C(短期集中予防サービス)ころぼん事業 ロード・ロジック合算 MAP





## 4 今後の展開・まとめ

## 4 まとめ・今後の展開

### 事業を通しての成果等

#### ○関係者の意識付け・方向性の確認

- ・ これまでも関係者間の規範的統合について、機を見て図ってきてはいるが、国の施策方向性から見た事業見直し・再度の目線合わせを行うことができた。
- ・ 外部からのアドバイザー講義等を通して客観的に市の事業を見直す機会となった。当市の短期集中予防サービスの効果を再確認し、今後も重点的に取り組むことを庁内外へと周知する機会にもなった。

#### ○各機関で行動を起こす障壁となっている項目を確認

- ・ 他機関からの支援で解決できそうなもの：行政の支援が必要であれば行政自身も行動を起こす
- 解決が容易でないもの：無理に解決しようとせず、他の方法を取る

# 4 まとめ・今後の展開

## 今後の展開

### ○次年度以降の事業展開

- ・グループワークの意見を集約⇒予算や調整の時間必要性を整理  
実施する事業の選定、取り掛かれるものから随時実施、各機関への協力依頼

サービス・活動C 自立支援の好循環プロジェクト 担当一覧

アウトカム		実施項目	高齢者福祉課	事業所	医療機関	社会福祉協議会	地域包括支援センター	健康増進課	福祉保健部	庁内	企業
1 地域での認知度向上	ポピュレーションアプローチ	チラシ配布	○	○	○	○	○	○	○		
	ポピュレーションアプローチ	事業案内	○	○	○	○	○	○	○		
	ポピュレーションアプローチ	イベント等で周知	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ポピュレーションアプローチ	広報紙やSNS等による周知	○	○	○	○					
	ポピュレーションアプローチ	ポスターチラシ動画の作成	○								
	ポピュレーションアプローチ	各種協議体・職域で周知	○		○	○	○	○			
2 医療介護職や企業等の キャッチ力の向上	早期発見・早期介入	対象者の抽出・相談対応	○		○	○	○				
	早期発見・早期介入	アウトリーチ活動	○		○	○	○				
	早期発見・早期介入	対象者へ事業紹介	○	○	○	○	○	○	○		
	早期発見・早期介入	対象者をつなぐ	○	○	○	○	○	○	○		
	組織・体制	サービス・活動Cの理解・意識の醸成	○		○	○	○	○	○	○	○
3 本人の能力が引き出され、 リエイブルメントが進む	適切なケアマネジメント	ケアマネジメントの検討	○				○				
	地域へ社会参加へ	卒業後の活動につながる支援	○				○				
別枠検討		チャフル協議	○			○					
		サービス・活動Bの検討	○								
		サービス・活動Cの検討	○	○			○				
		移動支援	○				○			○	

## 4 まとめ・今後の展開

### 今後の展開

#### ○第10期介護保険事業計画への反映《令和8年度策定作業》

- ・ 当市における重点事業として、計画に記載  
地域づくり加速化事業で作成したロジックモデルをベースに3年間の事業を構築

#### ○保険者機能強化推進交付金（成果指向型配分枠）に該当する事業の構築

- ・ 令和9年度に向けて、短期集中予防サービスをベースとした成果指向型事業を検討

ご清聴ありがとうございました  
支援チームの皆様、1年間ありがとうございました  
今後ともどうぞよろしくお願いたします



令和7年度地域づくり加速化事業



# 佐伯市への支援を通じた気付き、 今後の市町村支援について



大分県福祉保健部  
高齢者福祉課  
地域包括ケア推進班

# 大分県の概況（1）



## 大分県の概況

- 市町村数 **18市町村**
- 総人口 **約108.5万人** (全国34位)
- 高齢者人口 **約37.4万人**
- 高齢化率 **34.4%** | 全国平均 29.3% |
- 後期高齢化率 **19.6%** | 全国平均 16.8% |
- 要介護認定率 **19.7%** | 全国平均 20.5% |
- 第9期介護保険料 **6,235円** | 全国平均 6,225円 |

## 佐伯市の概況

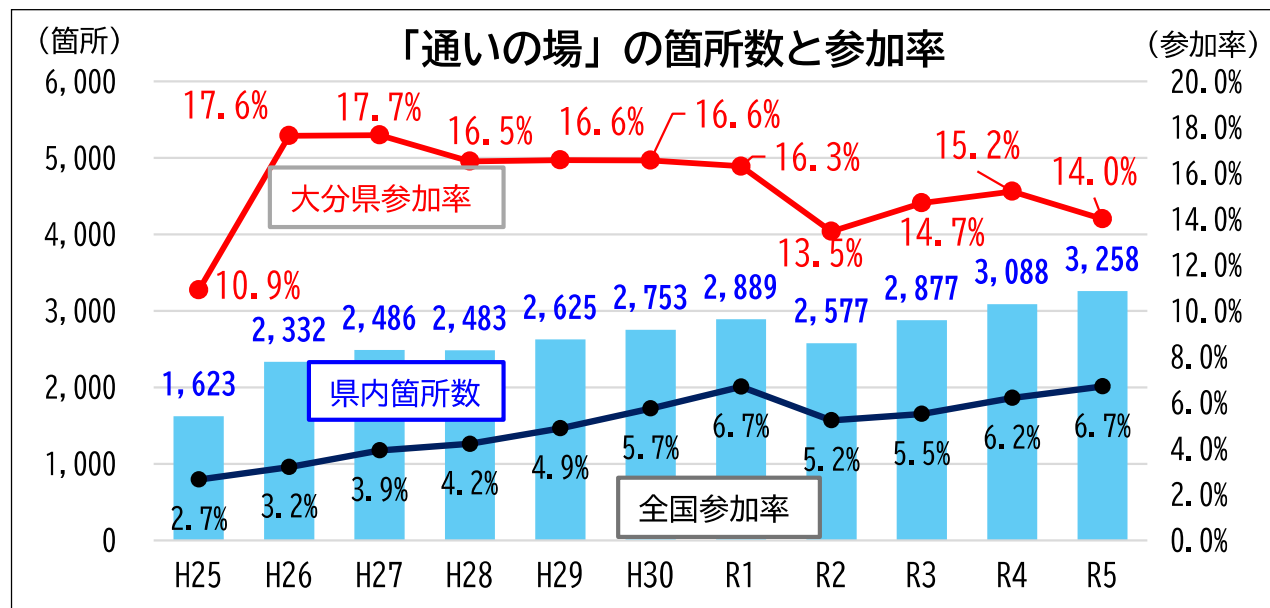
- 人口 **61,806人**
- 高齢化率 **43.4%**
- 後期高齢化率 **25.5%**
- 高齢者人口 **26,814人**
- 要介護認定率 **16.9%**
- 第9期介護保険料 **5,800円**

※総人口、高齢者人口、高齢化率はR6年10月現在（総務省統計局「令和6年国勢調査人口等基本集計」）  
要介護認定者数・要介護認定率|第2号被保険者含む|はR7年11月末現在  
（厚生労働省「介護保険事業状況報告 月報（暫定版）」）

# 大分県の概況 (2)

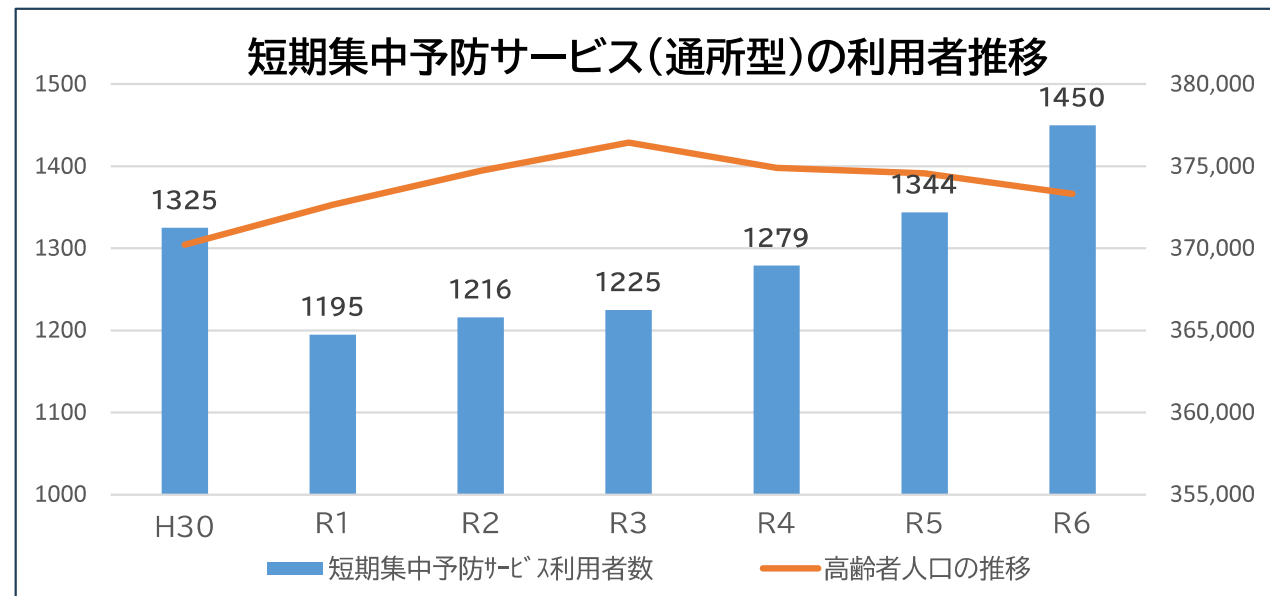
## 通いの場の参加率 日本一

- 本県の通いの場の箇所数は  
3,258か所まで増加
- 高齢者の参加率は、  
11年連続全国1位



## 自立支援型サービスの推進

- 全市町村で通所型・  
短期集中予防サービスが整備
- 短期集中予防サービスの  
利用者数も着実に増加



## あの「佐伯市」がなぜ??

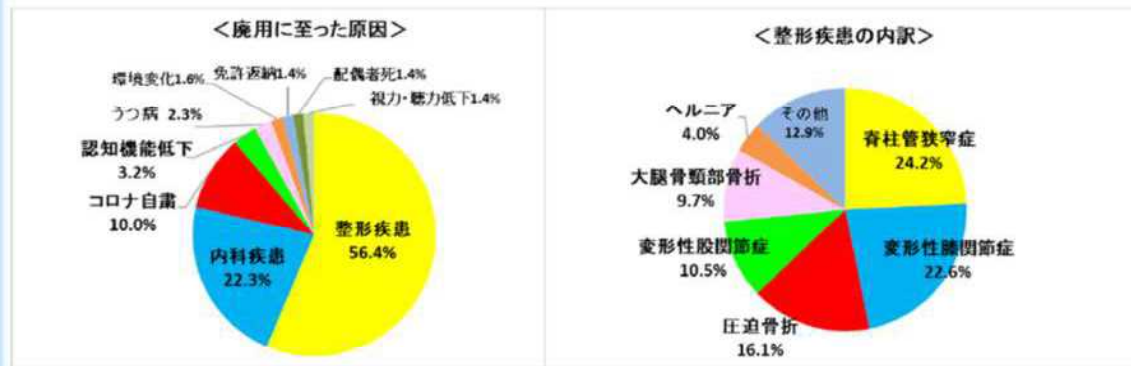
佐伯市は県内自治体のなかでも、地域課題からの施策形成やデータに基づいた事業運営など、好事例として紹介することが多い自治体



(参考)佐伯市における短期集中予防サービス利用者の状況分析

### ころばん事業利用者の状況（廃用に至った要因）

★令和2年、3年にケアマネジメント支援会議で検討した220人の状況を分析



一体どんな支援ができるのか??

# 地域づくり加速化事業における支援の流れ

## 第1回目支援（サービス・活動Cの推進における課題の洗い出し）

直前でコロナ罹患のため、参加できず、、、



## 第2回目支援（対応策の検討）

体力測定や動きが気になる人は包括につないでいるよ

グループワークにて

サロンや通いの場からのC型サービスの拾い上げて出来ていますか？

（C型に繋がっていないというのが課題だったはずだが）見極めにあたって何か基準があるんですか？

基準はないんじゃないかな、たしかに見極めるのが難しくて、、



市や包括は基準があるって言っていたけど、関係者に伝わっていないのかもしれない。C型へのつなぎの実態も確認が必要かも

関係団体の前に  
まずは市内での  
連携も重要だよ



## 保健所による支援（市内連携への支援）

短期集中予防サービスの対象となる高齢者の抽出が課題  
各課で協力できることはないか  
（高齢者福祉部門）



健康増進としてもライフコースアプローチが重要  
骨粗鬆症予防の観点からも、健診の際に待合時間にC型の紹介動画を流す、保健指導の際に、チェックシートを渡すことができるかも  
（健康増進部門）

## 第3回目支援（ロードマップ、ロジックモデルへの落とし込み）

名刺の裏にC型動画へアクセスできるQRコードを印字すれば、普及展開につながるのでは？  
明日からでもできそう



利用者宅の訪問にリハ専門職の同行ができないか？  
対象者の見極めがより容易にできるのでは

日々の業務が多忙。業務効率化に向けては、タブレットが必要

今以上にサロン活動に出向くのであれば、現状の人員では難しい

サービス・活動Cの必要性は関係者で共有OK  
次年度は優先準備を定め、実行の年へ

## “定期的な会議、打合せをしている” ≠ “連携が出来ている” 本質的な規範的統合に向けた取組の重要性

人の異動や時間の経過、社会的な変化(人手不足、業務負担増)に伴って、取り組みへの思いや、考えに変化が生まれる。

それぞれの立場の考えや状況、思いを汲み取りながら、地域全体の方向性を確認する作業も必要。

会議体の在り方、進め方、その前後における根回し、振り返りなど、関係者との本質的な規範的統合が必要。

(参考) 介護保険制度の見直しに関する意見(概要) (令和7年12月25日・社会保障審議会介護保険部会) (抄)

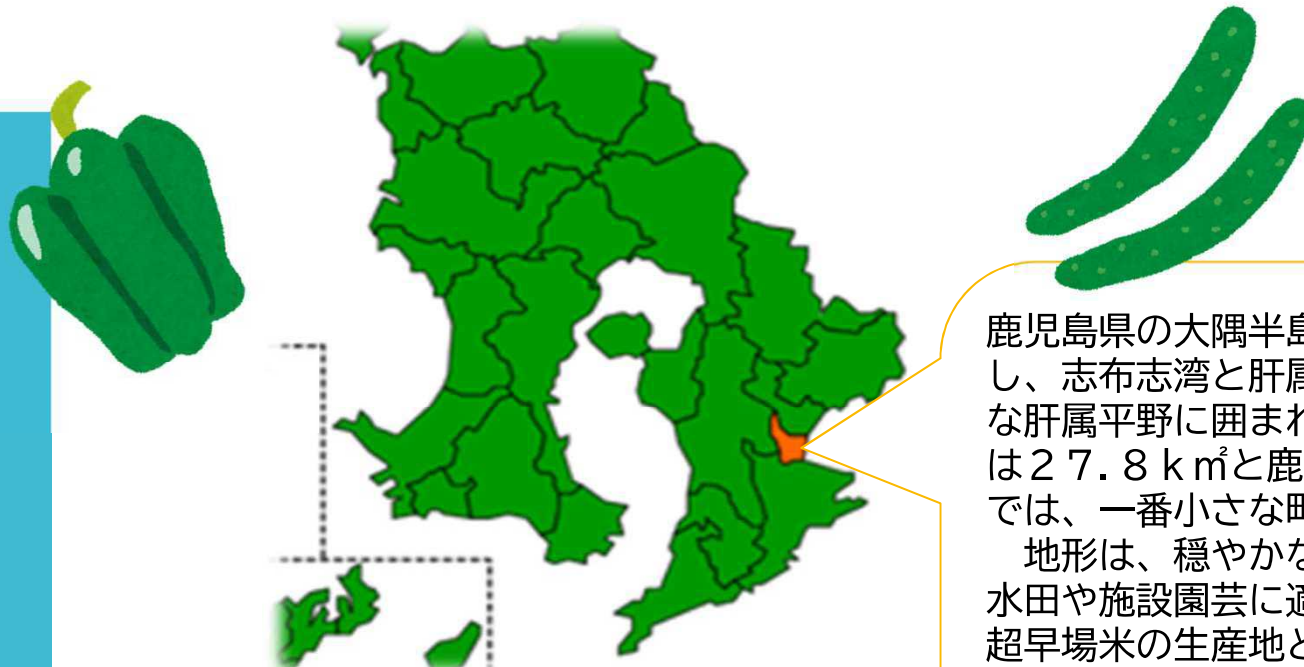
### ○ (総合事業)

市町村の総合事業の基盤整備を推進するため、都道府県が伴走的な支援や生活支援体制整備に係るプラットフォームの構築といった多様な主体とのつながりづくり等の更なる支援を行うことが重要(中略) 都道府県は、支援により多様な主体とのつながりが推進されているか確認しながら進めることが重要である。

# 地域づくり加速化事業の支援を受けて

鹿児島県東串良町  
地域包括支援センター  
SC 松元

# 東串良町の概要



- 人口：6,285人
- 65歳以上高齢者：2,369人
- 高齢化率：37.69%
- 介護認定率：18.36%
- 包括支援センター：委託型（株式会社 南の太陽）

鹿児島県の大隅半島中央東端に位置し、志布志湾と肝属川に面し、平坦な肝属平野に囲まれた地域で、面積は27.8km<sup>2</sup>と鹿児島県本土の中では、一番小さな町です。  
地形は、穏やかな平坦地が広がり、水田や施設園芸に適しているため、超早場米の生産地と知られ、さらに施設園芸による「ピーマン」や「きゅうり」は、いずれも「かごしまブランド」に認定されています。

(2026.1月時点)

⇒ 令和7年4月1日より

# 東串良町の移動ニーズ



地区ごとに異なる移動のニーズ

## ○買い物

買い物目的の移動では、町内の国道沿いに店舗が集中しているため、池之原地区への移動が多くみられる。

## ○通院

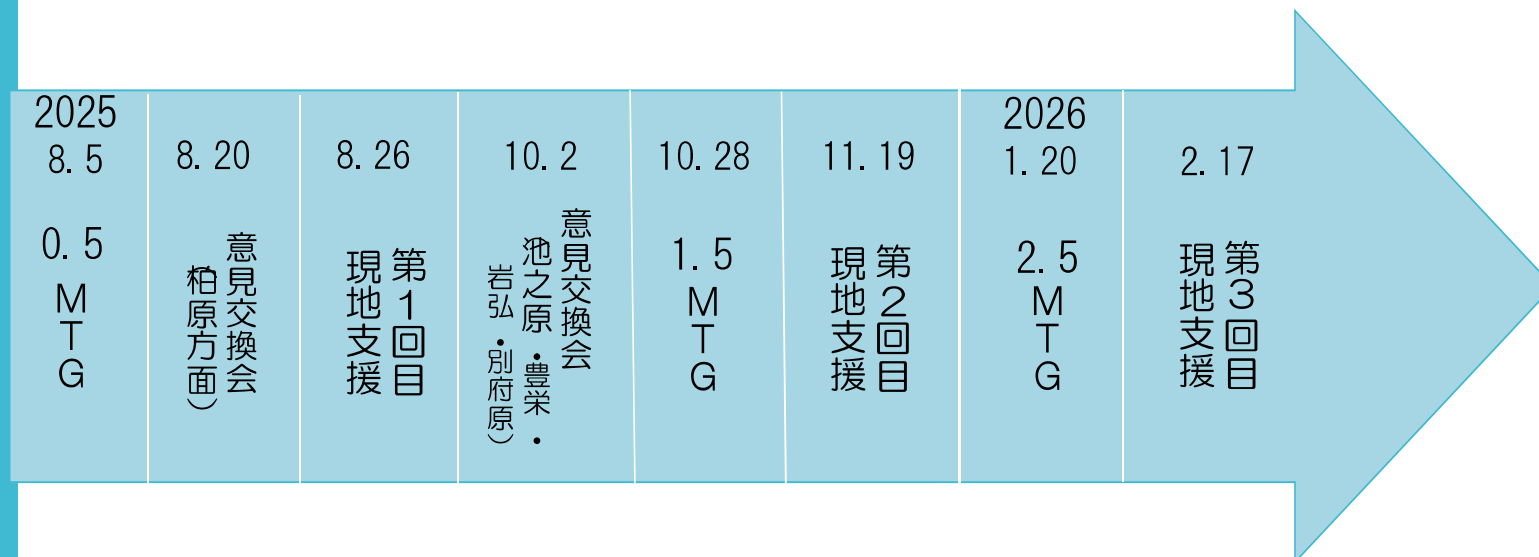
通院目的の移動では、隣町の鹿屋市および柏原地区への移動が多くみられる。

東串良町地域公共交通計画  
(令和7年3月策定) より

## 地域づくり加速化事業への 応募理由

- ① 業務実施体制の構築、関係者同士のネットワーク強化、多様な主体の発掘等、他自治体の先進事例や優良事例を学ぶ
- ② 多様な主体の創出や多世代が気軽に集まれる場所の創出
- ③ 地域資源やニーズ把握、担い手の養成や研修、地域のキーマンとの連携等の充実

# スケジュール



2025.8.20  
意見交換会

民生委員（午前）



柏原地区・事業所（午後）



# 第1回目 現地支援

## 【0.5次MTG（2025.8.5開催）】

### ○内容

- 東串良町の現状と課題、取り組みたいこと
- 1回目現地支援の方針

## 【2025.8.26開催】

参加者：町 + 包括 + 支援チーム

### ○内容

〈午前〉

- 東串良町の現状、課題
- 生活支援体制整備事業とは何かを学ぶ

〈午後〉

- 町としての生活支援体制整備事業のあり方（目指す姿含む）を検討

# 第1回目現地 支援を受けて



- ころばん体操が10年間存続している本当の理由



(SC) 自分の健康に気遣う、自分の足で動きたい、いつまでも元気でいたい



(本当の理由) その場所の体操以外での楽しみや参加する甲斐のある場所

「人と話せる、情報交換、体操もできる。楽しい」

- ころばん体操を核とし、リーダーや民生委員等の核メンバーでの意見交換を重ね、地域住民の課題の共有をし、住民同士の関係づくりを深める

2025.10.2  
意見交換会

池之原・豊栄地区（午前）



8.20の意見交換会とは別地区です

岩弘・別府原・  
社会福祉協議会・事業所（午後）





体操以外の  
日も集まり  
たいな

ころばんの  
人数が減っ  
てるね

大学に  
行きたい！

隣近所の仲  
がいいね

免許を返納  
した後の対  
策がない

記載されている内容以外にもたくさんの意見が出てきました。  
参加者の方たちは時間いっぱい話されてくださいました。



男性が  
少ない

地域の声を  
拾って支援  
する

ごみの収集場  
所が少ない

民生委員さん  
が多く動いて  
くれる

生協や月1  
の買い物バ  
スあるけど  
困ってる

## 第2回目 現地支援

### 【1.5次MTG（2025.10.28開催）】

#### ○内容

- ・10.2の意見交換会についての報告
- ・第2回目現地支援のについて

### 【2025.11.19開催】

参加者：町（福祉課・住民課・企画課） ＋ 包括 ＋  
住民（岩弘地区） ＋ 社協 ＋ ケアマネ ＋ 支援チーム

#### ○内容

##### 〈午前〉

- ・鹿児島県の現状と課題 鹿児島県 保健福祉部 生き生き推進課
- ・東串良町の現状と課題 東串良町 福祉課
- ・意見交換会【地域活動について】
  - ①地域における困りごとについて
  - ②地域活動による解決方法
  - ③発表
- ・アドバイザーによる振り返り及び講評

##### 〈午後〉

- ・午前の意見交換を受けて今後の方針検討
- ・振り返り



がね  
※鹿児島  
の郷土料理で  
サツマイモで作る  
かき揚げです。

キュウリの  
漬物

からいも  
だんご

## グループワークの発表



### <困りごと> 岩山

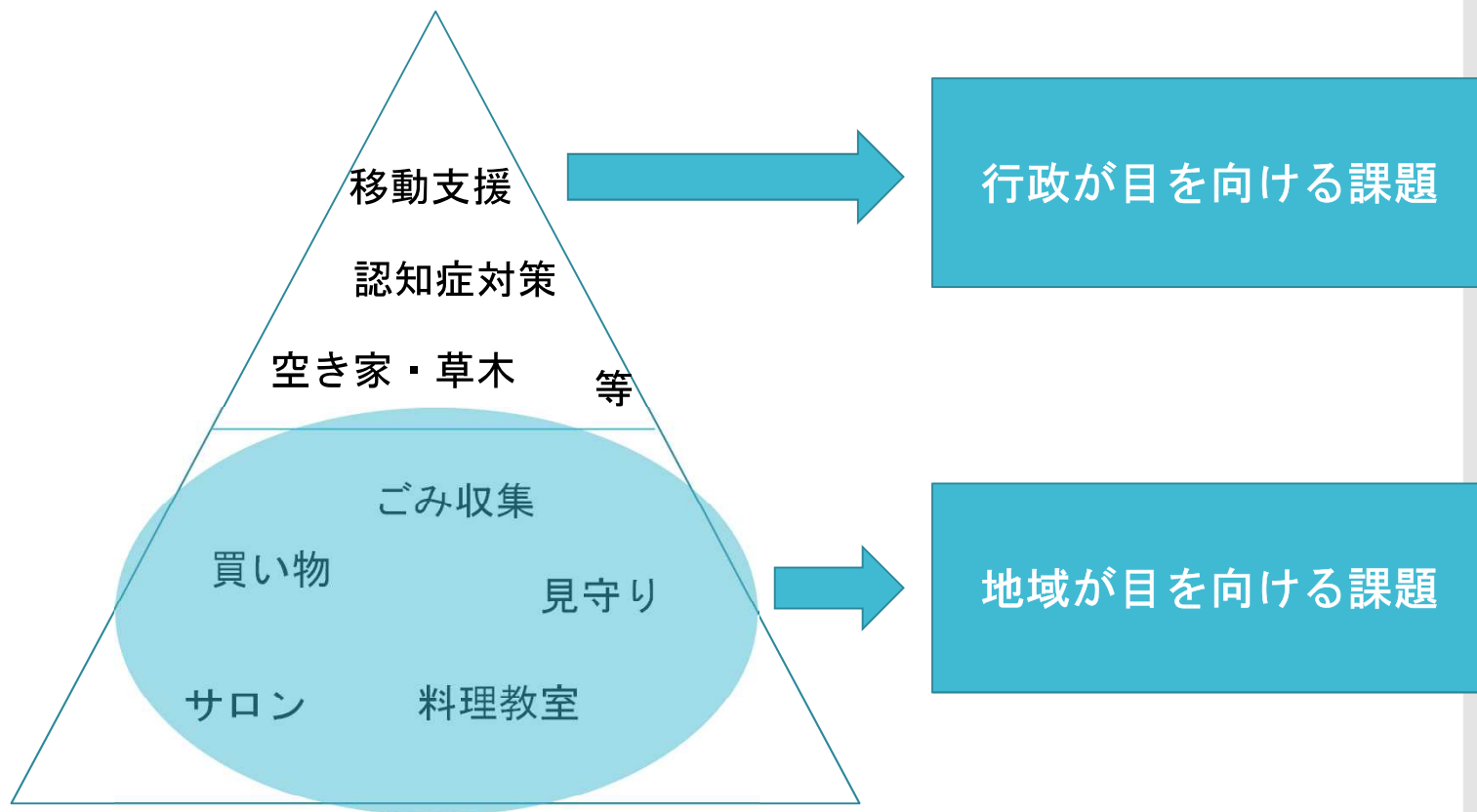
ろが

- ・見守りもどこまでしたら良い? 空き家 増えている。  
し悉くしているところ
- ・ゴミのポイ捨て (7バコ)
- ・独り暮らしだと、今後、買い物とか心配。ゴミ捨て  
個人商店1つ、魚屋さん
- ・柏原の97シーテ 200円 (バス亭まで) があるといいな
- ・病院発着のバス なくなる? 鹿屋市の病院まで  
1万円!

### <解決方法>

- ・民生委員さんと協力して見守り活動を続ける。
- ・免許と返して後、乗り合わせて移動できれば
- ・空き家#荒れ時 活用、補助。
- ・ゴミ出し ボランティア
- ・ココニコ館やにはろが あると良い!
- ・病院からの送迎バスがあるといいな!

# 第2回目現地 支援を受けて



第2回目支援～  
第3回目支援まで

第2回目支援の課題	取り組んだ内容
男性高齢者の引きこもり対策	岩弘地区の住民さんの男性料理教室の内容の打ち合わせ
移動支援対策	東串良物産館の指定管理者である株式会社MOENOVAさんと東串良町社会福祉協議会の福祉バスを活用して、イベントなどでの高齢者の外出機会創出や移動支援に関する打ち合わせ
ゴミステーション対策	住民課環境係の担当からのごみステーション設置について説明を行うよう調整

# 第3回目 現地支援

## 【2.5次MTG（2026.1.20開催）】

### ○内容

- ・第3回目現地支援について

## 【2026.2.17】

参加者：町（福祉課・住民課・企画課） ＋ 包括 ＋ 社協  
＋ 地域住民（岩弘） ＋ 企業 ＋ 支援チーム

### ○内容

#### 〈午前〉

- ・SCより前回【2025.11.19】の振り返り
- ・課題に対する提案事項
  - ①男性高齢者の引きこもり対策
  - ②移動支援対策
  - ③ゴミステーション対策
- ・意見交換会『地域活動について（前回に引き続き）』
- ・全体討議
  - ①各提案事項について
  - ②地域活動による解決方法について
  - ③提案以外の課題やそれぞれの役割について
- ・振り返り及び講評

#### 〈午後〉

- ・午前の全体討議を受け、今後の方針検討
- ・振り返り

栄養面が  
心配

住民からの男性料理教室に  
ついての検討案

振興会で  
決める

地区による  
ルール

社会参加  
の低下

交流

買い物

行政からのごみステーショ  
ンについての説明

企業からの高齢者の外出  
機会拡大についての検討案



	漢の料理教室	フラワーアレンジメント 地域交流型移動支援モデル事業	ごみステーション
良いと思う点 評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作る楽しさ</li> <li>・栄養管理、体力維持向上の意識向上</li> <li>・男性特化の取り組み</li> <li>・1人暮らしの方が人と話したいの意見ある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの送迎があることで参加しやすい</li> <li>・地域資源の活用、購買機会、外出機会の創出</li> <li>・男性が女性に花を贈るときのポイント的なテーマでも面白そう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ収集所を手作りすれば地域コミュニティにもなると思う</li> <li>・振興会で、再度話し合うための条件を知れてよかった</li> <li>・住民の利便性向上</li> </ul>
不安に思う点 心配な点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の出て行くタイプではない人にどのように参加したいと思っていただくか</li> <li>・食材の調達、時期によつての食中毒</li> <li>・他の地区の参加は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花は個人的に好きだから安価だと助かる</li> <li>・買い物支援はしてもらえる？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミステーションに行けない人の対策は？</li> <li>・新設した際に管理の仕方の検討が必要</li> <li>・費用と場所</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレーも良いが毎日の自炊に繋げるためには簡単すぎるメニューでも良いかも</li> <li>・地域の子どもたちを招いて多世代交流できたら良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のイベントとして別で費用は考えたい</li> <li>・年間を通したイベントだと楽しみが増えそう</li> <li>・お昼ご飯まで一緒にして交流できるといい、得意な方がいたら持ち寄りでも良さそう</li> </ul>	<p>新設にあたっての費用や管理のことなど町報などで発信してもらえたら良い</p>

おとこ  
**漢の料理教室**  
 ~はじめの一步~  
 「作って・食べて・しゃべって」  
 楽しむ時間

料理は初めてでも大丈夫！！  
 包丁の持ち方から、簡単で美味しい家庭料理まで  
 みんなでワイワイ作ります。

**こんな方におすすめ**

- ✓ 料理には興味があるけど、きっかけがない方
- ✓ 一人暮らしで、料理が自己流の方
- ✓ 外出する機会や、仲間づくりを探している方
- ✓ 定年後、何か新しいことをはじめたい方
- ✓ 料理経験は問いません
- ✓ お一人での参加も大歓迎です！  
 みんなで作って、みんなを試食(交流タイムあり)

**教室内容(予定)**

- ★ 美味しい粋の一杯～お出しの間いたお味噌汁～
- ★ ごはんが進む簡単！今夜の一品
- ★ 冷蔵庫の余りものでつくる！一晩待つだけで簡単
- ★ 簡単・失敗しにくい家庭料理
- ★ 包丁や火の基本から丁寧に説明

**開催概要**

- 日 時：令和8年◆月◆日(■)▲▲時から
- 場 所：岩弘中公民館(東串良町岩弘2184-4)
- 対 象：岩弘地区在住の概ね65歳以上の男性
- 定 員：〇〇名(先着順)
- 参加費：〇, 〇〇〇円(材料費込み)
- 持ち物：エプロン、三角巾(あれば)
- 連絡先：090-1234-5678(ヤクバ シロウ)

第3回目支援で提案した資料の一部です。

この他にも、提案を行いました。

- 地域交流型移動支援モデル事業
- ごみステーション

『活動の見える化』が大事！！

## 今後の展開

- 話し合いの場を公民館に移し、話し合いの場の継続
- 住民のやりたいことを開催してみる
- 住民の課題が1つでも形になり成功できたら、広げていく

## まとめ

# 『繋がる・知る・生まれる』

- 「支援を整える」→「関係を育てる」
- 関係部署との連携・情報共有

支援チーム、事務局の皆さん  
ありがとうございました！



令和7年度地域づくり加速化事業

# 鹿児島県・東串良町の支援について



鹿児島県保健福祉部高齢者生き生き推進課

# 地域包括ケアシステム構築が求められる本県の背景

- 全国に比し高齢化が進行しており、後期高齢者の割合が高く推移し、要介護認定者や認知症高齢者が増加する。
- 全世帯に占める高齢単身者世帯割合が全国2位、高齢夫婦世帯が全国4位と高く、地域で見守りや多様な生活支援サービスを必要とする高齢者が多い。
- 要介護状態となった原因疾患として、認知症や脳卒中の割合が高く、医療と介護の連携による支援が必要な高齢者が多い。また、軽度者では骨折・転倒など生活機能の低下に起因する疾患が多い。
- 生産年齢が減少し、高齢者を支える担い手は今後減少する状況にある。
- 離島や僻地が多く、医療・介護資源の偏在もあるため、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築が必要である。



## 【課題】

- 介護予防の推進や元気高齢者等が活躍・活動出来る地域づくり
- 高齢者等の見守りや地域における生活支援等の互助、共助活動の維持・強化(地域全体で高齢者を支え合う仕組みづくり)
- 高齢者のニーズに応じた医療・介護サービスの提供体制
- 認知症施策の強化

- 高齢者人口(R6年10月1日現在)  
65歳以上 512千人 (34.4%)  
75歳以上 275千人 (18.5%)
- 高齢者世帯 (R2国勢調査)  
高齢単身者世帯 119,020世帯  
全国2位(16.4%)  
高齢者夫婦世帯数 108,442世帯  
全国4位(14.9%)
- 要介護等認定者数(R5年度末)  
101,374人  
→H12年度の約1.8倍  
要介護認定率  
19.1%(全国19.4%)
- 65歳以上高齢者に占める認知症高齢者ランクⅡ(見守り必要)以上  
(R4.10)  
63千人 ← 要介護認定者の62.5%
- 要介護状態になった主な原因疾患  
(R4年度高齢者実態調査)  
認知症(21.7%)  
骨折・転倒(20.7%)  
脳卒中(17%)

# 鹿児島県の市町村支援事業：保険者機能強化支援事業

## 【目的】

団塊の世代(1947~1949年生)が全員75歳以上となる2025年,その先の2040年を見据え,地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を図るため,地域の高齢化率や将来人口の推移等を踏まえ,地域支援事業の各事業の効果検証を行うとともに,地域に相応しい地域支援事業の全体像を関係者と作れるよう支援する。

## 【事業内容】

### (1) セミナー・研修会等

◆県内市町村首長等を対象に,地域支援事業等の効果や成果を検証し,地域の実情を踏まえ,地域支援事業の全体像を再考するためのセミナーや研修会等を実施する。

- ✓ 県内市町村首長向けセミナー 1回
- ✓ 県内市町村担当者向け研修会 2回
- ✓ 各地域振興局・支庁等による意見交換・研修会 各1回(計8回)

#### 《令和7年度実施状況》

- ・県内市町村幹部職員向け等セミナー(7/23)
- ・中山間地域・離島地域を対象としたセミナー(7/2~3)
- ・離島地域(徳之島3町,知名町,和泊町,与論町)を対象としたセミナー(2/19)

### (2) 市町村の地域課題解決に向けた伴走型支援 1市町村

◆専門家を派遣し,市町村,専門家,県(当課,振興局)が一体となって取り組み,地域支援事業等の効果や成果を検証し,地域の実情を踏まえて,地域支援事業の全体像を再構築するための伴走型支援を行う。

#### 《令和7年度実施状況》

- ・徳之島町:生活を支えるボランティアの養成(3/16予定)
- ・天城町:庁内連携の機運づくり(7/18)
- ・伊仙町:生活支援体制整備事業の推進(11/14)

# 今年度の地域づくり加速化事業における県の現状・目的

## 《現状》

- ◆県としては、「鹿児島すこやか長寿プラン2024」で「高齢者等ができる限り住み慣れた地域で自立し、社会参画しながら、かつ尊厳を持って、安心して暮らしていける長寿社会の実現」を基本理念に掲げており、地域包括ケアシステムの深化及び推進に向けた取組を主要施策として位置づけ。全国に先行して高齢化が進行し、既に2005(平成17)年から後期高齢者の数が前期高齢者を上回っており、今後更に後期高齢者の割合が増加するところ。
- ◆また、医療・介護双方のニーズを有する85歳以上人口がピークに近づく2040(令和22)年には、2020(令和2)年と比較して約1.4倍の約14万6千人となることを見込まれるといった現状を踏まえると、介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の深化及び推進を実現することが求められる。
- ◆東串良町は、令和6年度において県の「地域支援事業の連動性及び庁内連携」をテーマにしたセミナーに積極的に参加するとともに、地域包括支援センター業務の民間委託等について講師への個別相談も行う等、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して生活できる体制を構築したいとの強い意向があった。

## 《目的》

- ◆地域包括支援センターの役割は多岐にわたり、委託先には専門的な知識や技術及び多様なネットワークが求められることから、地域づくり加速化事業を通じて、町担当課、委託先、町内キーパーソン等との地域内での情報共有や連携の強化を図りたい。特に、町として課題と感じている生活支援体制整備事業については、町内の地域資源やニーズの把握、担い手の養成等に繋がる取組を支援し、少ない地域資源を活かした多様な主体による多様なサービスが提供できる中山間地域のモデルケースとなるよう後押ししたい。
- ◆県としても、今回の支援にあたっては、3回の現地支援、各回の訪問支援前後のミーティング等に積極的に関与し、「九州厚生局-アドバイザー-高齢者生き生き推進課-県地域振興局等-東串良町」が一体となった支援体制を構築したいと考えている。また、市町村が抱える課題や悩み、通常業務との兼ね合いで東串良町の担当者が孤立しないように、忌憚なく意見交換ができる、対話を中心とした「身近な相談役」としての役割を県としても担っていきたいと考えている。

# 東串良町支援の様子

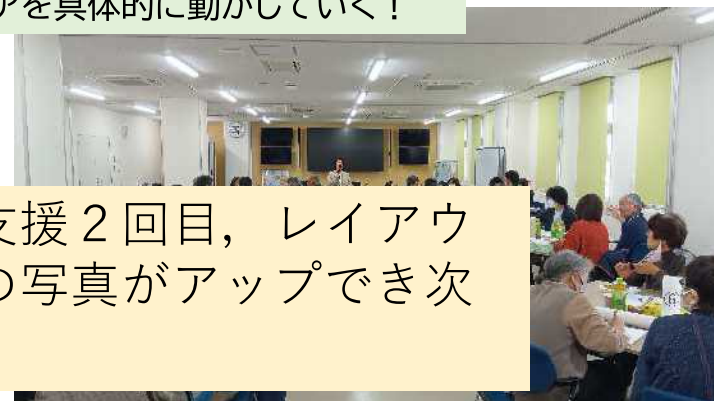
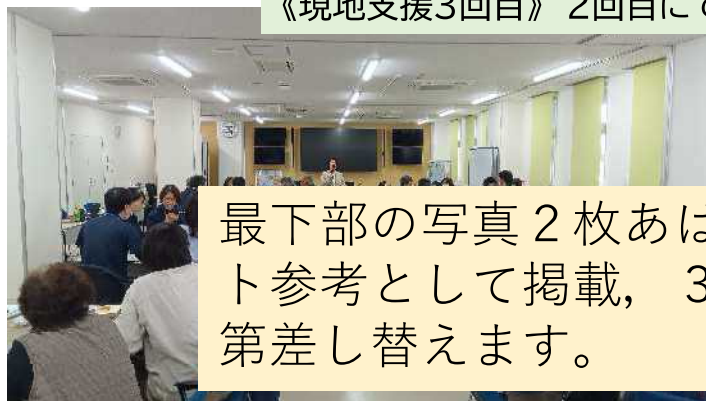
《現地支援1回目》 まずは改めて生活支援体制整備事業とは何かを学ぶ！



《現地支援2回目》 東串良町の現状を説明し住民と意見交換！



《現地支援3回目》 2回目にでたアイデアを具体的に動かしていく！



最下部の写真2枚は現地支援2回目，レイアウト参考として掲載，3回目の写真がアップでき次第差し替えます。

# 東串良町支援にあたっての県としての気づきや感想等

## 東串良町役場と包括スタッフの関係性と行動力

- ◆地域包括支援センターを初めて民間委託する試みであり、とりわけ、町として具体的に進めることができていなかった生活支援体制整備事業であったが、東串良町役場と委託先の地域包括支援センタースタッフは、日頃から率直に意見を交わせる良好な関係性を築き、双方が気軽に相談し合える体制ができていた。そのため、行政と包括が同じ方向を向き、果敢にチャレンジし、町内ネットワークの構築、地域の課題発掘等、大きな成果を得ることができた。

## 探せば見つかる社会資源

- ◆社協が実施している温浴施設への送迎の合間と物産館の場所を活用して、春のフラワーアレンジメント教室を検討。使わない時間を有効活用し、快く福祉バスの運行を協力してくれる「社協」、既に地域の憩いの場となっているが地域のためにと熱い思いを持った「物産館」。改めて、調べて、話してみると、社会資源はすぐ近くに存在し、新しいものが生まれる。

## 支援による効果

- ◆市町村の担当者は通常業務で多忙であるため、庁内の上司、同僚、関係者等が集まって、課題や状況等を共有・意見交換を行う場や機会は少ないが、今回の支援によって関係者が何度も集まって協議する機会を作り、課題や今後に向けての方針について庁内で共通理解を図ることができた。

## 令和8年度に向けて

- 今回の支援を通じて上がったアイデア(男の料理教室、地区のゴミ問題等)を東串良町としても、具体的に進めたいとの思いが強いと感じた。また、住民と一体となって取り組む事例は県内の参考ともなり得ることから、県としても、大隅地域振興局を良き相談相手としていただき、町の必要に応じて、アドバイザーの派遣等でフォローアップを実施していきたい。
- また、少ない地域資源を活かした多様な主体による多様なサービスが提供できる中山間地域のモデルケースとなるよう後押ししたい。



サンゴの村宣言

Onna Village in Okinawa

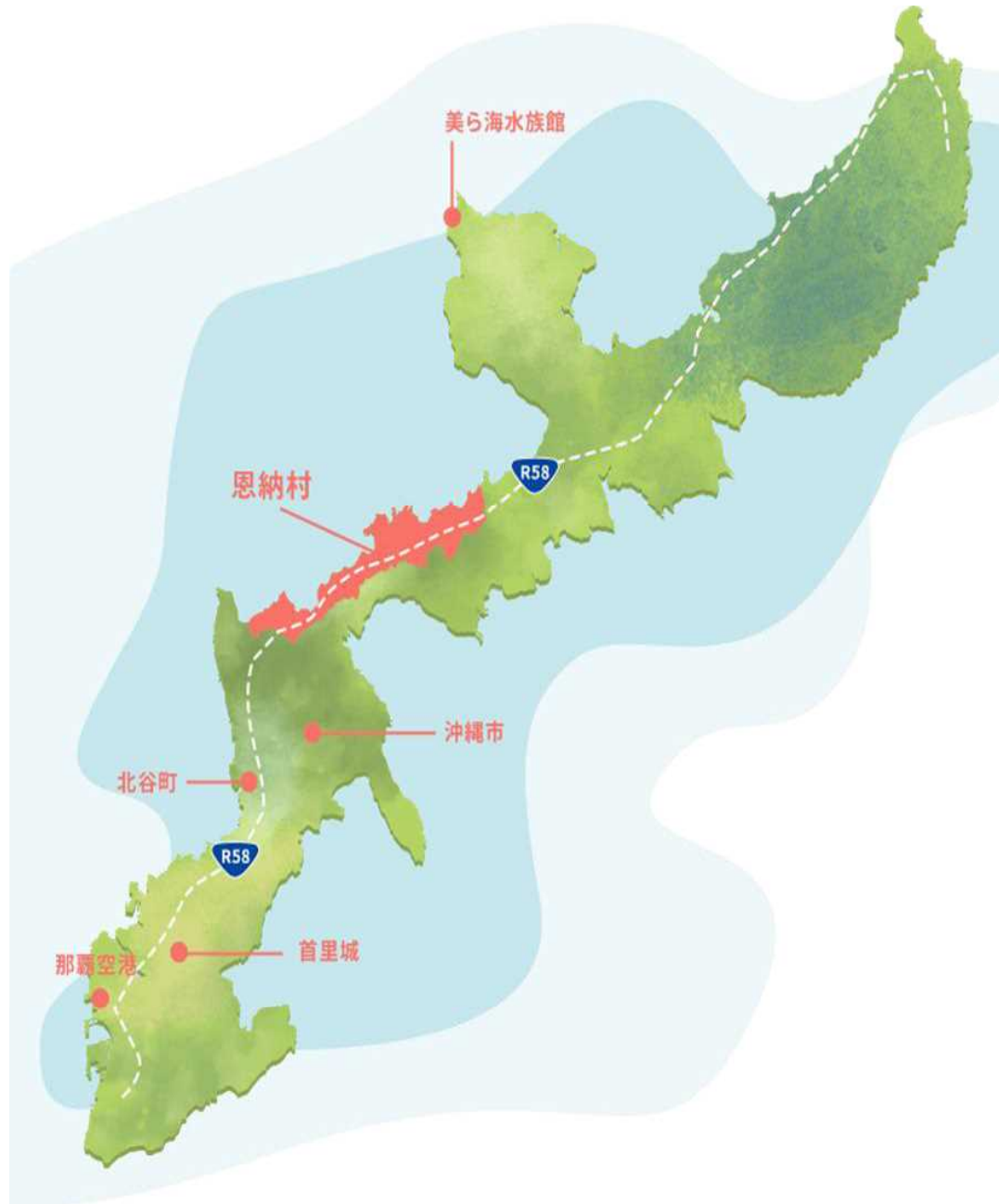
# 令和7年度地域づくり加速化事業 市町村報告会



沖縄県 恩納村 福祉課



# 恩納村の特徴



## 恩納村の特徴

- ・沖縄本島中央部西海岸に位置し、南北に27.4km、東西に4.2kmと細長い形をしている。
- ・東シナ海に面し、美しい海岸線が観光資源となり、県外からの転入者が増えている。また、沖縄科学技術大学院大学の開学などに伴い、国外からの転入者も増加している。

# 恩納村の基礎情報

項目		令和6年度		令和5年度		広域平均 (令和6年度)
●総人口		11,316人		11,262人		
	●65歳以上	2,825人	<b>25.0%</b>	2,805人	<b>24.9%</b>	<b>24.3%</b>
	65～74歳	1,456人	(51.5%)	1,467人	(52.3%)	(52.3%)
	75～84歳	826人	(29.2%)	788人	(28.1%)	(30.1%)
	85歳～	543人	(19.2%)	550人	(19.6%)	(17.6%)
●要介護認定者数		483人	<b>17.3%</b>	494人	<b>17.8%</b>	<b>17.2%</b>
	要介護1～5	384人	13.7%	383人	13.8%	13.5%
	要支援1、2	99人	3.5%	111人	4.0%	3.7%
●調整済み認定率			<b>16.48%</b>		<b>18.90%</b>	<b>18.89%</b>

[出典] 人口や高齢化率は、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和7年1月1日現在、令和6年1月1日現在）」  
 要介護認定者数・認定率は、沖縄県介護保険広域連合「介護保険事業状況報告（各年度3月分）」時点

- 地域包括支援センター 1か所（直営）
- 医療機関 2カ所（クリニック・診療所）
- 歯科 1か所
- 介護老人福祉施設 1か所（100床）
- 有料老人ホーム 2カ所
- 看護小規模多機能型居宅介護 1か所
- 訪問看護事業所 3カ所
- 通所介護事業所 3カ所
- 居宅介護支援事業所 2カ所



最大の理由は

昨年度で村内唯一のヘルパー事業所が閉鎖し、訪問介護サービスの提供が難しくなった。

## ①介護予防ケアマネジメント

サービス計画を作成する際に、既存サービス・事業に対する視点が大きく、インフォーマルな地域資源等への意識が希薄である。

## ②サービス・活動事業

地域住民にサービス提供が難しい状況が伝えきれておらず、まだまだヘルパー事業所に依存する傾向にある。地域の担い手の発掘や育成が課題となっている。

## ③生活支援体制整備事業

1層と2層の役割が明確になっておらず、コーディネーター間の連携の持ち方の確認が必要である。また、コーディネーターが把握している地域資源等について、コーディネーターと地域包括支援センターでの共有がうまくいっていない。

## 課題解決のために重要だと思ったこと

担当のみでもがいても限界があるため、現状の課題を共有し、いろいろなアイデアが出せるような雰囲気作りが重要だと思う。

また、より具体的なアイデアを出してもらうためにも、目指すべき姿（方向性）を示す必要があると思う。

社会福祉協議会などの関係機関との連携も重要となってくる。

## 支援チームに期待したこと

優先すべき課題の順位づけとその課題解決のための助言をいただきたい。また他市町村の取り組み方法などを情報提供いただき、本村に適した方法を共に検討していただきたい。

それぞれの事業に連動性を持たせるための仕組みづくりを助言していただきたい。

# 1 回目現地支援

## 【0.5次ミーティング（8月28日開催）】

### ○内容

- ・ 恩納村の現状と課題、取り組みたいこと
- ・ 1 回目現地支援の内容について協議

### ○1回目支援の方針

- ・ 現状と課題の共有、事業所等も含めて統合研修を行う。

令和7年10月9日開催

### ○内容

- ・ 地域づくり加速化事業について
- ・ 村の現状と課題、取組方針について
- ・ アドバイザーのよる講義
  - 1) 自立支援に向けた介護予防ケアマネジメント
  - 2) 地域の拠点としての「通いの場」
- ・ 意見交換（グループワーク）

参加された事業所へ自立支援や地域主体の活動について一通り知っていただいたが、事業所として具体的に行動する段階までは至らなかった。今後村と事業所と話し合いを継続しながら村内の自立支援に向けて必要な取組について検討していくこととなる。

## 1 回目現地支援を終えて

- 長期的な取組が想定されるため、ロードマップを作成し課題や目標を明確にして具体的な計画を立てる。
- 次回は訪問Cの専門職や今後関わる可能性の高い専門職（管理栄養士、歯科衛生士）にも参加の声掛けをする。
- 第1回に参加した事業所へ講演やグループワークを踏まえて事業所としての課題感やできることなどをもう少し聞いてみる。

## 2回目現地支援

### 【1.5次ミーティング（12月4日開催）】

#### ○内容

- ・ 1回目現地支援の振り返り
- ・ 1回目現地支援後の村の取り組み報告


#### ○2回目支援の方針

- ・ 介護予防ケアマネジメントの考え方の理解、アセスメントにおける視点を学ぶ
- ・ SCの現状や意見など状況確認のヒアリング

令和7年12月15日開催

#### ○内容

- ・ 自立支援に資する介護予防ケアマネジメント研修
- ・ アドバイザーと県担当者によるSCヒアリング

- 
- ・ 地域包括支援センターの職員のみではなく、居宅介護支援事業所のケアマネジャーや職能団体（理学療法士協会・歯科衛生士会）の参加もあり、アセスメントからプラン作成に繋げる学びがあった。
  - ・ SCのヒアリングでは、通いの場や自主サークルなどの情報を把握しまとめています。公民館活動が活発であり住民の状況を把握していることが確認された。

### 2回目現地支援を終えて

○介護予防ケアマネジメントについて、情報収集からアセスメント、プラン作成まで、一連の流れを地域包括支援センターのプランナーや居宅介護支援事業所のケアマネジャーに学んでもらういい機会になったと思う。また、職能団体（理学療法士協会、歯科衛生士会）からも参加してもらうことで、ケアマネジメントから実際に対象者へのアプローチまでの流れを知ってもらうきっかけにもなったと思う。

○SCのメンバーに個別でヒアリングしてもらったことで、SCの不安解消につながったと思う。SCが各種事業にどのような立場でどのような関わりを持ってもらうのか、一緒に考えていく必要がある。

○情報収集については、現在使用している帳票では足りない部分もあったと思うので、村内の事業所と一緒に検討しながら、今後整理していく必要性を感じた。

○今後については、ロードマップを作成し、次年度以降の具体的な取り組みを検討する必要がある。

## 3回目現地支援

### 【2.5次ミーティング（令和8年1月6日開催）】

- 内容
  - ・ 2回目現地支援の振り返り
- 3回目支援の方針
  - ・ 地域包括支援センターの予防プラン相談会
  - ・ ロードマップ作成の意義について
  - ・ 恩納村の目指す姿を考える

令和8年1月23日開催

#### ○内容

- ・ 実際の予防プランの相談会
- ・ アドバイザーによるロードマップの意義についての講義
- ・ 恩納村の目指す姿について（グループワーク）



- ・ 実際のプランを用いて、必要な視点や考え方等について学んだ。
- ・ 今後のロードマップ作成の必要性を学び、参加者で目指す姿を決定！

**元気（恩）わくわく（納）支え合う豊かな（村）**  
**～みんなが笑顔で住み続けたい村1位～**

## ①焦らず丁寧に少しずつでも進めていく重要性

この事業にエントリーしたきっかけはヘルパー事業所が閉鎖したことをきっかけに、住民が担い手となる訪問型サービスを早急に作りたいとのあせりがあった。しかし、単に急いでサービスを作り上げるのではなく、サービス提供事業所や居宅介護支援事業所、社会福祉協議会など関係機関と課題を共有し、自立支援の視点を学んだうえで時間をかけて進めていくことの重要性を学んだ。

## ②各事業所との関係性の再確認

今回の支援を通して、各事業所との距離感の近さを再確認することが出来た。行政だけで物事を進めるのではなく、一緒に考えながら共に作り上げていくことが本村にあった進め方だと気づくことが出来た。また、今回の支援を通じて、事業所職員の気づきも多かったと感じた。

## (1) ロードマップ作成に向けて

①目指す姿を実現するための「今の課題」は何か。

②課題を解決するための打ち手は何か。

③アウトプット・アウトカムの設定。

④誰が、いつ、どのように進めていくのか。

事業所と一緒に検討を進めていく。

※重要なことは、歩みを止めずに少しずつでも進めていくこと

## (2) 新規事業の立ち上げ検討（訪問B、通所C）

## (3) 自立支援に資する介護予防ケアマネジメントのための帳票整理



支援チーム、事務局の皆様、誠にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。



令和7年度

地域づくり加速化事業による  
恩納村への伴走支援を通して



沖縄県保健医療介護部  
地域包括ケア推進課

# 沖縄県の概要

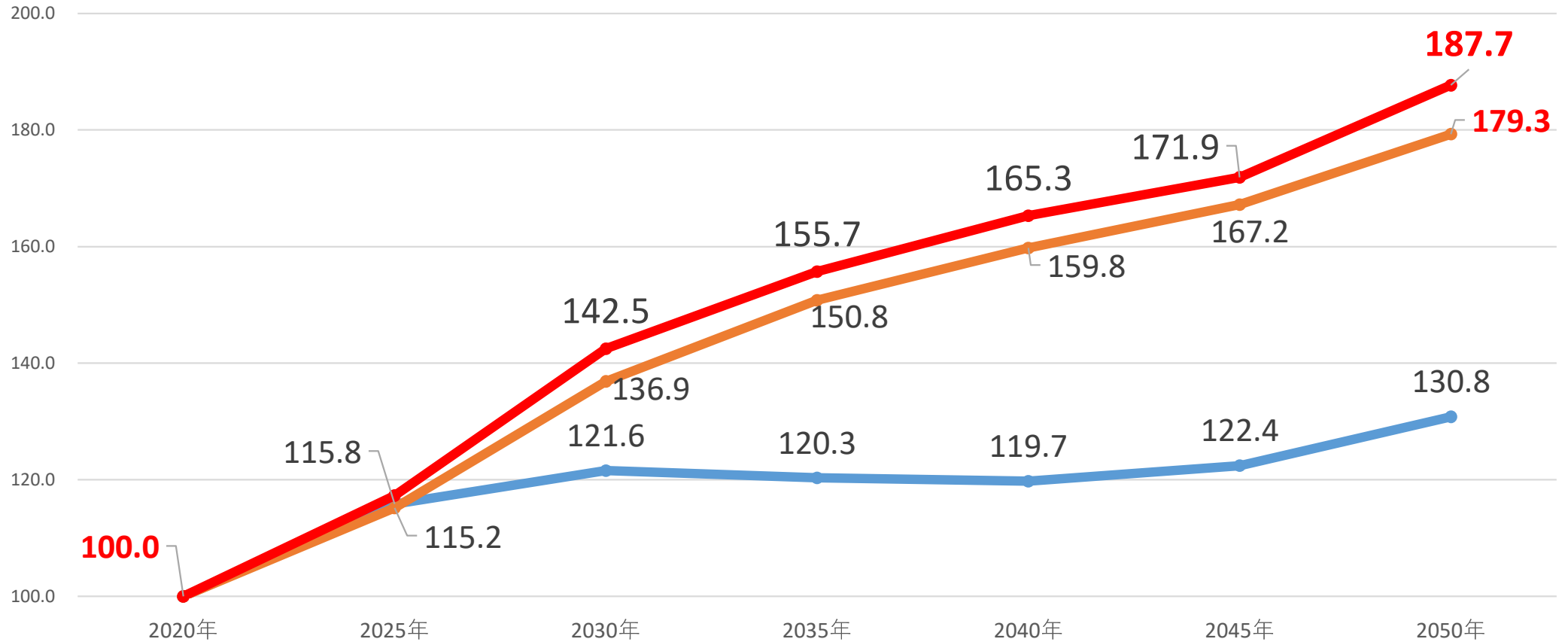
人口 1,468,039人(R8.1.1)

高齢化率24.3%(R6)

要介護等認定率 19.3%(R6)

## 75歳以上人口の伸び率

—●— 全国 —●— 沖縄県 —●— 恩納村



## ○恩納村へ県の取組（支援）の紹介

1. アドバイザリー事業による専門職派遣の活用を紹介
2. リエイブルメントの考え方に基づく短期集中予防サービスの構築支援（モデル事業）の紹介
3. 生活支援体制整備事業に関する県の取組内容の共有

## ○支援を通じた気づき

1. 自立支援を意識した介護予防ケアマネジメントのスキルを習得するための広域的な人材育成の必要性
2. 生活支援体制整備事業に関する行政職員向けの研修の機会
3. 県内アドバイザー育成の課題

## ○今後の展開

1. 介護予防ケアマネジメントに関するプログラム化した研修会の検討
2. 生活支援体制整備事業における行政職員向け研修の実施（行政職員とSCの連携強化）
3. 県内アドバイザーの育成に向けた人材確保とアドバイザー養成に向けた取組の検討

ご支援いただいた支援チームのみなさま、  
事業を活用いただいた恩納村のみなさま、  
ありがとうございました。



# 令和7年度地域づくり加速化事業報告会

九州厚生局の支援について

厚生労働省 九州厚生局 地域包括ケア推進課

# 九州厚生局の支援先

## ■ 厚生局主導型（3自治体）

### 【支援先】

対象自治体	支援テーマ	支援アドバイザー（敬称略）
大分県佐伯市	サービス・活動C	株式会社ともいきLabo 代表取締役（理学療法士）北尾 昌平
		熊本県大津町介護保険課地域包括支援センター 就労的活動支援コーディネーター（元九州厚生局地域包括ケア推進課長）山内 強
鹿児島県東串良町	生活支援体制整備事業	なかまのなかま協議会 事務局長 原 舞
		社会医療法人関愛会法人本部 地域福祉推進室長(元大分県国東市第1層SC) 宮田 太一郎
沖縄県恩納村	サービス・活動B D、介護予防ケアマネジメント、生活支援体制整備事業	熊本県大津町介護保険課地域包括支援センター 就労的活動支援コーディネーター（元九州厚生局地域包括ケア推進課長）山内 強
		株式会社アイトラック 代表取締役（作業療法士）佐藤 孝臣

### （参考）支援スケジュール

自治体名	0.5mtg	1回目支援	1.5mtg	2回目支援	2.5mtg	3回目支援
大分県佐伯市	7月14日（月） 10:00～11:30	8月4日（月）	10月3日（金） 14:00～15:30	11月11日（火）	1月7日（水） 9:30～10:30	2月9日（月）
鹿児島県東串良町	8月5日（火） 14:00～15:30	8月26日（火）	10月28日（火） 10:00～11:30	11月19日（水）	1月20日（火） 10:00～11:30	2月17日（火）
沖縄県恩納村	8月28日（木） 9:30～11:00	10月9日（木）	12月4日（木） 9:30～11:00	12月15日（月）	1月6日（火） 15:00～16:30	1月23日（金）

# 令和7年度における九州厚生局の主な役割

1. 「地域づくり加速化事業事務局」との各種調整
2. 「アドバイザー」の決定
3. 「アドバイザー事前打合せ会」の開催
4. アドバイザーとの打合せ
5. 県や市町村への支援
6. 「地域づくり加速化事業ブロック別研修」の開催

## 2. 「アドバイザー」の決定

令和7年度地域づくり加速化事業アドバイザー一覧

氏名	所属	役職	アドバイス可能な分野、事業等								地域共生 社会関係	備考	
			地域包括ケアシステム関係										
			サービス・活動事業	一般介護予防事業	地域ケア会議	在宅医療・介護連携推進事業	認知症総合支援事業	権利擁護（成年後見・介護相談員等）	生活支援体制整備事業	その他			
北尾 昌平	株式会社ともいきLabo	代表取締役（理学療法士）	○	○	○						○※3	※3 保健事業と介護予防の一体的実施などを含めた保健事業との連携、地域包括ケア全般	
佐藤 孝臣	株式会社アイトラック	代表取締役（作業療法士）	○	○	○	○					○※4	※4 介護予防ケアマネジメント：地域包括ケア全般	
原 舞	なかまのなかま協議会	事務局長									○		
宮田 太郎	社会医療法人関東会 法人本部 地域福祉推進室	地域福祉推進室長 (元大分県国東市第1層SC)									○		
山内 強	熊本県大津町介護保険課 地域包括支援センター	就労的活動支援 コーディネーター (元九州厚生局地域包括ケア推進課長)	○	○							○	○※7	※7 地域包括ケア全般： 事業のPDCAサイクル・各事業の連動・地域づくり・介護アシスタント導入等

50音順 敬称略

R7.7.7 地域づくり加速化事業九州厚生局アドバイザー事前打合せ資料より抜粋

### 3. 「アドバイザー事前打合せ会」の開催

#### 令和7年度 地域づくり加速化事業九州厚生局アドバイザー事前打合せ（R7.7.7）

##### 《次 第》

- 1 九州厚生局主導型アドバイザー及び当局職員の紹介
- 2 地域づくり加速化事業(概要)
- 3 支援先自治体（大分県佐伯市、鹿児島県東串良町、沖縄県恩納村）
- 4 意見交換等

R7.7.7地域づくり加速化事業九州厚生局アドバイザー事前打合せ資料より

## 4. アドバイザーとの打合せ

随時、電話やメール、オンライン  
でアドバイザーとの情報共有を行  
いました。

## 5. 県や市町村への支援

### ■ 支援に当たり心掛けたこと

1. 「地域づくり」は正解のない取り組み
2. 「地域づくり」は仮説と検証の連続
3. 市町村が主役である（決定権は市町村にある）
4. 「傾聴」と「共感」の姿勢
5. 地域の関係者とつながる➤地域づくり加速化事業に係る説明
6. その他

## 6. 「地域づくり加速化事業ブロック別研修」の開催

### テーマ 生活支援体制整備事業

生活支援体制整備事業の実施にあたっては、市町村が中心となり、生活支援コーディネーターとの緊密な連携のもと事業を進める必要があります。市町村と生活支援コーディネーターとが、生活支援体制整備事業の目的や課題、その解決に向けた方策等を共有することにより、生活支援体制整備事業の更なる活性化を図ることを目的に開催。

### 対象

市町村生活支援体制整備事業担当職員、生活支援コーディネーター、県職員、社協職員、その他関係者 等

### プログラム

〈開会挨拶〉 九州厚生局健康福祉部長

〈基調講演〉 「地域支援事業実施要綱の一部改正に対応した事業デザイン」  
一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構 政策推進部 副部長 中村 一郎 氏

〈事例発表〉 「心理的安全性が働くチームづくり～国東市における活動を通じて～」  
① 国東市副市長 小川浩美 氏  
② 九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー 宮田太一郎 氏

〈質疑応答〉

〈グループワーク〉 「生活支援体制整備事業における成果（目的）とは何か考えてみよう。」

# その他

## 「令和8年度地域づくり加速化事業」の活用について

今年度と同様に、総合事業等の実施に課題を感じており支援を必要としている市町村に対し、知見を有するアドバイザーを年3回程度派遣し、県との連携のもと伴走的支援を実施しますので、当該事業の活用については是非ともご検討ください。

## 九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー派遣について（九州厚生局独自事業）

九州厚生局では、九州・沖縄管内の地域包括ケア深化推進及び地域共生社会実現に向けた支援を希望する市町村等に対して、それぞれの市町村等の課題に即したアドバイザーの派遣を実施しています。

この機会に研修会や自治会等の講演などに、アドバイザー派遣を活用してみてもは如何でしょうか。

### 1 アドバイザー派遣事業の流れ

当局HPでご確認ください。

### 2 アドバイス項目

- (1) サービス・活動事業
- (2) 一般介護予防事業
- (3) 地域ケア会議
- (4) 在宅医療・介護連携推進事業
- (5) 認知症総合支援事業
- (6) 権利擁護（成年後見・介護相談員等）
- (7) 生活支援体制整備事業
- (8) 地域共生社会関係
- (9) その他

### 3 九州厚生局地域包括ケアシステムアドバイザー一覧

次ページ「参考」のとおり

# 【参考】九州厚生局地域包括ケアシステム等アドバイザー一覧

令和7年6月現在

アドバイザー氏名	所属	役職	アドバイス可能な分野、事業等								地域共生社会関係	備考	
			地域包括ケアシステム関係										
			サービス・活動事業	一般介護予防事業	地域ケア会議	在宅医療・介護連携推進事業	認知症総合支援事業	権利擁護（成年後見・介護相談員等）	生活支援体制整備事業	その他			
1 石山 裕子	福岡県大川市総務課	課長補佐兼庶務係長	○		○					○			
2 梅本 政隆	株式会社地域創生Coデザイン研究所	ポリフォニックパートナー								○※1	○	※1 重層的支援体制整備事業	
3 江田 佳子	長崎県佐々町多世代包括支援センター	参事（保健師）			○					○	○※2	※2 地域共生に向けた地域まるごとケアについて	
4 大坂 純	東北こども福祉専門学院	副学院長	○	○	○	○		○	○		○		
5 岸部 誠	NPO法人 市民後見人の会・ながさき	理事長							○				
6 北尾 昌平	株式会社ともいきLabo	代表取締役（理学療法士）	○	○	○						○※3	※3 保健事業と介護予防の一体的実施などを含めた保健事業との連携、地域包括ケア全般	
7 坂上 陽一	公益社団法人肝属郡医師会 肝属郡医師会立病院	地域医療室長				○							
8 佐藤 孝臣	株式会社アイトラック	代表取締役（作業療法士）	○	○	○	○					○※4	※4 介護予防ケアマネジメント：地域包括ケア全般	
9 佐藤 信人	(NPO) ミシガンネット（老年学） 高齢者を支える学際的チームアプローチ推進ネットワーク	理事			○					○	○※5	○	※5 ケアマネジメント、ケアプラン点検等
10 猿渡 進平	医療法人静光園白川病院 地域医療連携室	地域医療連携室長									○※6	※6 高齢者支援、認知症と共に生きる社会について	
11 莞 一浩	福岡市認知症フレンドリーセンター	センター長									○		
12 中垣内 真樹	鹿屋体育大学・スポーツ生命科学系	教授		○									
13 原 舞	なかまのなかま協議会	事務局長								○			
14 宮田 太郎	社会医療法人関東会 法人本部 地域福祉推進室	地域福祉推進室長 (元大分県東市第1層SC)								○			
15 山内 強	熊本県大津町介護保険課 地域包括支援センター	就労的活動支援コーディネーター (元九州厚生局地域包括ケア推進課長)	○	○							○※7	○	※7 地域包括ケア全般：事業のPDCAサイクル・各事業の連動・地域づくり・介護アシスタント導入等

ご清聴ありがとうございました

